

国際会議から

第7回 鉄道オペレーションのモデリングと分析に関する国際会議 (RailLille2017)

本国際会議は、鉄道運行のモデル化と分析に関する会議です。2005年、オランダのデルフトでの第1回以降、ヨーロッパを中心に開催されてきました。前回(2015年)の東京開催を経て、今回で7回目です。鉄道総研からは、筆者のほかに2名が参加しました。筆者は、列車ダイヤに対する乗車率推定手法に関する発表を、水素・エネルギー研究室の小川知行副主任研究員は、列車運行電力シミュレーターに関する発表を、運転システム研究室の加藤怜副主任研究員は、速度規制時の運転整理手法に関する発表を行いました。

会議では、列車ダイヤ、運行管理、旅客流動、エネルギー消費などのセッションに分かれ、全体で103件の発表がありました。筆者の発表に対しては、実際の乗車率との比較についての質疑応答などがあり、欧州におけるこの分野の専門家との有意義な意見交換となりました(図1)。

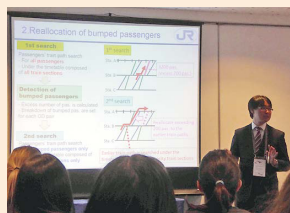


図1 質疑応答を行う筆者



図2 リール市内のトラム



國松武俊

信号・情報技術研究部
運転システム研究室
副主任研究員

期間中には、フランス国鉄などによる基調講演2件や、TGV指令室などへの技術訪問も開催され、欧州の鉄道運行の現状、今後の計画についての知見が深まりました。

開催都市のリールはフランス北部に位置し、周辺の国々とも高速鉄道で結ばれた、アクセスの良い場所です。市内では、トラムや無人運転のメトロが高頻度で運転されるなど、鉄道による交通網が充実した都市である点が印象的でした(図2)。

正式名称：7th International Conference on Railway Operations Modeling and Analysis

開催国：フランス(リール)

期間：2017/4/4-7

主催：International Association of Railway Operations Research

開催頻度：隔年

次回開催予定：2019年6月 スウェーデン

ホームページURL：<https://railille2017.sciencesconf.org/>